



**Gregory Vuyani Maqoma**

**ダンサー、コレオグラファー、俳優、ダンス教育者**

1980年代後半に政況が悪化し、塞いだ気分から逃れるためダンスに打ち込む。90年代にはヨハネスブルクのダンスカンパニーMoving Into Dance (MID) で本格的にトレーニングを始める(02年からは同カンパニーの芸術監督を務めている)。99年には奨学生としてパフォーマンス・アーツ・リサーチ・トレーニング・スタジオ(PARTS)に籍を置き、アンヌ・テレサ・ドウ・ケースマイケル (Anne Teresa De Keersmaeker) のもとで学びながら、ヨハネスブルクに自身のカンパニー Vuyani Dance Theatre (VDT) を創設した。

同世代のアーティスト、アクラム・カーン (Akram Khan) やヴィンセント・マンツォエ (Vincent Mantsoe)、フォスティン・リニエクラ (Faustin Linyekula)、ダダ・マシロ (Dada Masilo)、シャネル・ウィンコック (Shanell Winlock)、シディ・ラルビ・シェルカウイ (Sidi Larbi Cherkaoui)、ンツァツァ・マサングウ (Nhlanhla Mahlangu)、さらにマーケット劇場の芸術監督でもある演出家のジェイムス・ンゴボ (James Ngcobo) と親交が深く、共に作品を手がけている。

受賞に FNB Vita Choreographer of the Year (1999、2001、2002)、Standard Bank Young Artist Award for Dance (2002)、Tunkie Award (2012) など。ダイムラー・クライスラー・コレオグラフィー・アワード (2002) およびロレックス・メンター&プロトジェ (2003) のファイナリスト。その他『Exit/Exist』でベッシー賞最優秀賞 (2014)。ロレックス・アーツ・イニシアティブで審査員 (2016-17)、グラハムズタウンで開催された国民芸術祭のメイン・ダンス・プログラムでキュレーターを務めた (2017)。フランス芸術文化勲章シュヴァリエを受勲 (2017)。ダンス教育に対して南アフリカ芸術文化省よりウシバ賞 (Ushiba Award) を受賞 (2018)。バージニア・コモンウェルス大学、セネガルのエコール・ドウ・サーブル (Ecole De Sables) より招聘 (2018)。2020年マラケシュで開催予定の Biennale de la Danse (Dance Biennial Africa) 選考委員。最近『Via Kanana』と『Cion: Requiem of Ravel's Bolero』のアフリカ・ヨーロッパツアーを行っている。

近作にウィリアム・ケントリッジ (William Kentridge) と手がけた『ザ・ヘッド・アンド・ロード』 (2018年、テート・モダン・ギャラリーで初演)、イドリス・エルバ (Idris Elba)、クウメ・クウェイ=アマ (Kwame Kwei-Armah) と手がけた『Tree』 (2019年初演、マンチェスター国際フェスティバル、ヤング・ヴィック劇場共同製作)。